

# ひかしき 東木ひさよ



おれんじ通信 第34号

コロナの混乱を乗り越え、誰もが「明るい希望を持てる社会」の実現を！！  
少子高齢化が加速する中、不妊治療や産後ケアの充実、シニアのデジタル支援、子供や若者の支援、市内北部の環境整備と活性化についてご紹介します。



LINE

友達登録をよろしく  
お願いいたします。



安心して子育てできる環境を。

## 不妊治療、産後ケアの支援充実へ！



令和4年度の出生数は、全国で初めて80万人を下回り77万人前後との見通し。深刻な少子化が進んでいます。藤沢市も若い世代の転入が増加していますが、ご多間に漏れず出生数は8年前と比べ18%も減少。「少子化対策に特化した部署と専門の職員の配置」を訴え、

「子ども支援センター」が設置(予定)されます。特に、**不妊の保険適用後に負担が増加している方に、市として新たな助成制度の創設を。**また、不妊の悩みで孤独に陥っている方もいます。きめ細かな相談とサポート体制の構築を訴えています。



## 「産後ケアサービス」料金の低廉化と受けやすい環境整備を！



藤沢市  
産後ケア事業

出産後の母体は「全治2ヶ月の負傷と同等の状態」ともうかがいます。ホルモンバランスも崩れやすく、産後うつ傾向は4人に1人。晩婚晩産化が進む中、産後の心身のケアは大変重要です。7年前に提案しやっと実現した藤沢市の「産後ケアサービス」は宿泊型、デイサービスに加えて4月から訪問支援も始まり、選択肢が増えます。しかし、気づくと利用料金が高額です。これまで市内には少なかった利用施設ですが、市内初の産後ケアセンターも開設予定です。**誰もが気軽に利用できるよう、料金の低廉化を早急に。また、双子、三つ子等の家庭に応じたオーダーメイド方の支援を併せて訴えています。**

## 「人にやさしいデジタル社会」の実現へ。「楽しくてワクワクする体験」の共有を！

かねてより要望してきた「スマホなんでも相談窓口」の市内8ヶ所での開設が決まりました。内閣府の調査では、「スマホやタブレットを利用しない」との回答が60代が26%、70代は58%。またデジタル機器の「必要性を感じない」が50%、「使い方がわからない」が40%との結果です。高齢世代の方々のデジタル機器に対する心の壁を取り除くには、スマホやタブレット利用を「自分の世界が広がり、楽しい」と心から実感するようなアプローチが大切です。今後の取り組みとして以下のように提案しています。



### 東木ひさよからの提案

- ①自治会の回覧や広報などで「スマホ教室」や「相談窓口」の幅広い告知を。
- ②「スマホ教室」の講師に高校生や大学生の活用を。
- ③スマホの楽しさを遊びながら学べる「スマホ体験ツアー」の実施を。
- ④デジタル人材育成支援から就労までをつなげる市独自の仕組みづくりを。

孤独を深める子どもや若者が、安心して心豊かに過ごせる藤沢へ。

## 「不登校児」と「ご家族」の両面から支援を！

コロナ禍を通じ、不登校の子供が増えています。令和3年度に年間30日以上欠席者は小学校で326人、中学校では544人にのぼります。原因が複雑化しているうえ、コロナの影響でストレスが増加しています。子供たちが安心して学べる受け皿と、一人ひとりに寄り添う姿勢が必要です。また保護者自身の焦りや苦しみは、子どもに過度の負担を与えます。学校教育センターで開催される保護者の「おしゃべり広場」の充実とともに、市内には、不登校の同じ悩みを持つ親子を支援する活動団体もあります。当事者同士の共感や前向きに生きる力にもなります。「不登校児」と「ご家族」の両面を支えるため、こうした民間団体との連携強化を訴えました。

学校教育相談センター



親子の居場所 応援ラボ



## 若者の可能性を開き、挑戦を支える支援を！



私が2012年に提案し、実現した「ユースサポート・ユースワーク ふじさわ」。開設より9年。毎年着実に自立し令和3年度には105名の進路が決められました。悩みを抱える若者を早い段階でサポートすることが大切です。ご本人ならびに親世代や教員など多くの方に認知していただくよう、周知の強化工夫を要望。また、もう一つの若者達の負担は、奨学金の返済です。与党公明党が実現した「奨学金返済支援制度を藤沢市として幅広い職種に活用すること」並びに、市内の企業が「奨学金返還(代理返還)制度」を活用できるよう広く情報の提供や徹底を訴えました。



## すべての地域が「誇り」を持てるまちの実現を。

住民満足度調査を行ったところ、北部の数字が著しく低い、という結果が出ました。御所見地区は、周辺に鉄道駅がない上、さらに唯一のスーパーマーケットが撤退し、住民は暮らしにくさを感じています。こうした声を踏まえ、①自宅からの移動の充実を図る新たな交通環境づくりを行うこと、また、②買い物環境については民間事業者と協力し、新たな仕組みづくりを。また、③大雨時に起こる生活道路の浸水対策など、都市基盤の整備についても要望しました。市内13地区すべての住民が快適に暮らせる地域づくりに向けて、これからも提案を続けて参ります。



## 東木(ひかしき)ひさよプロフィール

藤沢市議会議員3期。北海道旭川市出身、北海道立旭川東高、明治学院大学卒。厚生環境・子ども文教常任委員会 委員長、建設経済・総務常任委員会 副委員長を歴任。R3、4年度 藤沢市議会監査委員。令和4年度子ども文教常任委員会、補正予算常任委員会委員、行政改革特別委員会委員。



LINE



Facebook

東木ひさよ  
公式サイト



&



<http://higashiki.com>

政策の詳細はこちら➡



TEL

&

FAX

(0466)88-1125



hisayo2011@yahoo.co.jp